

# 尚徳寮

令和2年9月30日

鳥取大学附属中学校

No. 6

## ～Connect 壁をこえたその先に～

9月5日(土)、晴天に恵まれ、附属中学校運動会を開催しました。本年度の運動会はプログラムを午前中に縮小したり、保護者の参加についても3年生の保護者の方のみに制限したりと、例年とは違う形での開催となりました。今年のテーマは「～ Connect-壁をこえたその先に～」です。運動会練習・当日を通して、学年をこえた繋がりを創り、心のバトンを繋げていきたい。そして仲間とともに創りあげた絆を得たその先に、どんな状況でも柔軟に対応できる附中生になって欲しいという思いが込められています。生徒たちはその意を汲み、また、観客に魅せる演技を意識して各種目や役員活動に臨み、はつらつとした笑顔のはじける運動会となりました。



生徒会長 佐藤優真君 開会式あいさつ

今年の運動会スローガンは「～ Connect-壁をこえたその先に～」です。現在新型コロナウイルスの影響で、大人数が一度に集まってはいけない、飛沫防止のため大声でしゃべってはいけないなど様々な制限があります。そのため、他学年との繋がりを生み出すことが難しくなっています。しかし、そんな中でも学年の壁を越えて繋がることのできるように、どんな場面でも柔軟に対応することができる附中生になってほしいという意味が込められています。

例年2種目である縦割り種目も今年は3種目になり、全て新しいものになっています。手探りで進めていかなければならない中でも、各クラスの縦割りリーダーは入念に計画を立てていました。そのような正解のないものの答えを探そうとする姿は附中生らしいなあと思いました。今日の運動会は、結果ではなく、当日までの練習、そして今日1日を通して得たものを、今後の生活に生かして行って欲しいと思います。

このような状況で運動会ができることというのは当たり前ではありません。開催できたことに感謝の気持ちを持って臨んでほしいと思います。そして、楽しむところは全力で楽しんで、かけがえのない思い出にして欲しいです。それでは、運動会がんばりましょう！

# 生徒会活動に期待すること

運動会終了後、生徒会では後期の生徒会活動に向けて、役員選挙等の準備を進めています。附属中学校の生徒会の特色の1つは、従来の取り組みを継承するだけでなく、生徒自らが考えた新たな取り組みが、執行部が変わるごとに生まれてくることです。さらに、自治的集団となるために、学校生活の問題・課題を生徒自身で考え、解決していく活動を期待しています。

生徒手帳には学校のきまりが書かれています。しかし、必要最低限のことしか書かれていません。良いかどうか判断に迷う場面もあると聞きます。まずは自分で考え判断する余地があるというのは、とても大事なことです。「附中生らしさを意識して、自分で判断してください。」ということです。自由度が高い分、判断の基準をどこに置くのか、一人ひとりの意識が問われます。

生徒会活動は学校の要となるものです。自分たちで附属中を創造する、生徒一人ひとりがその気概を持って学校生活を送ることを期待します。



## 東部駅伝に向けて

今年も駅伝チームが結成され、夏休みから練習を継続しています。東部地区駅伝大会が例年より1月遅く行われることから、盆明けからの練習となりました。サッカー、野球、テニス、水泳、剣道と陸上以外の部からも生徒が自主的に参加し、男子16名女子6名の駅伝部となりました。選手たちは声を掛け合いながら、メリハリのある練習を続けています。皆様のご支援、ご声援をお願いします。



## 教育実習1回目を実施しました。



実習生も一緒に朝読書

9月10日(木)から25日(金)の2週間、38名の鳥大生が教育実習を行いました。新型コロナウイルスの影響により、5・6月に予定されていた実習が延期となり、4回ある実習を秋の2回にまとめて行うこととなりました。

教育実習の場を提供することは、附属中学校の使命の1つです。指導教員の指導の下に、実習生たちは真摯な気持ちで前向きに取り組んでいました。生徒も実習生の来校を自然体で受け入れました。実習生のひたむきな姿に共感し、自分たちも向上しようとする生徒を育てていきたいと思えます。

2回目の実習は10月15日(木)から29日(木)の2週間で附属中の卒業生も含めた実習を予定しています。